

# ぽっかぽか



天間幼稚園  
園長だより  
第 7 号  
令和 4.12.6



**うまれてきてくれてありがとう！ あなたがいるだけでみんながしあわせです！！**

富士山には雪、園庭には落ち葉が舞い散り、朝晩の寒さが身に染みる今日この頃ですが、子どもたちは元気いっぱい、にこにこ笑顔で園の生活を楽しんでおります。

11月は、PTA役員の皆様による秋祭り、ご自宅から徒歩等でお迎えに来ていただいた引き渡し訓練、天間地区の皆様のご厚意による七五三奉納相撲大会、JAふじ伊豆天間支店様のご協力による焼き芋会、食育推進室とマックスバリュー東海の滝野様による食育講座「ぶりの解体ショー」、天間地区にお住いの吉野様による手作り紙芝居、28日(月)から2日(金)の5日間に渡った天間幼稚園地域公開保育研修における表現遊びなど、様々な体験活動を実施することができました。新型コロナウイルスへの感染がまだ危惧される中、無事に行事を実施でき、友達・保護者・地域・事業所等の皆様との関わりなど「人とのかかわり」を通して、学びを大きく広げることができたことをたいへんありがたく感謝申し上げます。

さて、以前読んだ雑誌に、次のようなお祖母様のお話がありましたので掲載します。

「『お母さん、僕、生まれてきてはいけなかったの?』、寝かしつけている布団の中で、孫が突然言ったそうです。娘が驚き、『ええっ! どうしてそんなことを言うの?』と聞くと、『だって、お母さんがいつも言っているよ。子どもを育てるのは大変だって、友達といつも電話で話しているよ、子どもがいて自分の時間がないって。僕、お母さんに迷惑かけているの?』、そして、孫は、『お母さん、どうして泣いているの? ごめんなさい、僕のこと心配させて。』、その話を娘から聞いて、私は胸が痛くなりました。(中略) 親が何気なく話している会話を孫がどんな思いで聞いているのかと(後略)」という内容の話でした。

親子の温かな信頼関係があったからこそその会話だとは思いますが、子どもたちは、親や教職員など、大人の言動をしっかり見聞きしているということ、何気なく出てきた言葉であっても、子どもたちの心は純粋で、自分のことはもちろん、保護者や教職員のうわさ話などにも興味を持って聞いていて、それなりの反応をすることを改めて考えさせられました。

ついため息をついたり、愚痴を言いたくなったりするときもありますが、子どもたちの健やかな成長を育むために、マイナス言葉は、みんなで自制していききたいと思います。

大人の何倍ものスピードで成長していく天間幼稚園の子どもたちを見てみると、どの子も素晴らしい可能性を秘めた素敵な存在であり、この子たちが、これからの世の中を支え、より良く変えていく人材になるのだということを実感させられます。

感染症もだいぶ落ち着き始め、通常の活動に戻りつつありますが、今後も気を緩めることなく感染防止に努め、笑顔で年末年始を迎えることができるようみんなで努めてまいりたいと思います。今後ともご理解ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

## 負ける練習

相田 みつを

柔道の基本は受け身  
受け身とは転ぶ練習 負ける練習  
人の前にぶざまに恥をさらす稽古  
受け身が身につけば達人  
負けることの尊さがわかるから



失敗をすればするほど、失敗をしない方法が見つかる。失敗をすればするほど成功へのノウハウが蓄積されていく。

だから、失敗したことを悔やむよりも、失敗した原因を考え、成功への一步を踏み出すことが大切。

幼稚園は、失敗をするための練習場とも言えますね。

## 子育てポイント

◎「あいいうえお言葉」を使いましょう!

- ㊦ ありがとう  
「お手伝いしてくれてありがとう」等
- ㊧ いいねー  
「○○ちゃん、いいねー」等
- ㊨ うまくなったね  
「前よりもずっとうまくなったね」等
- ㊩ えらいね  
「友達のことを考えてあげてえらいね」等
- ㊪ おもしろいね  
「すごくおもしろい考えだね」等

時には、「生まれてきてくれてありがとう」のように、無条件で「あいいうえお言葉」を使い、自尊感情を育ててあげたいですね!



## 「ひび割れ壺」

菅原裕子 訳



インドのある水汲み人足は2つの壺を持っていました。天秤棒の端にそれぞれの壺をさげ、首の後ろで天秤棒を左右にかけて、彼は水を運びます。

その壺の一つにはひびが入っています。

もう一つの完璧な壺が、小川からご主人様の家まで一滴の水もこぼさないのに、ひび割れ壺は人足が水をいっぱいに入れてくれても、ご主人様の家に着くころには半分になっているのです。

完璧な壺は、いつも自分を誇りに思っていました。なぜなら、彼がつくられたその本来の目的をいつも達成することができたから。

ひび割れ壺はいつも自分を恥じていました。なぜなら、彼がつくられたその本来の目的を、彼は半分しか達成することができなかったから。

2年が過ぎ、すっかり惨めになっていたひび割れ壺は、ある日、川のほとりで水汲み人足に話しかけました。

「私は自分が恥ずかしい。そして、あなたにすまないと思っている。」

水汲み人足はたずねました。

「なぜそんなふうに思うの？何を恥じているの？」

壺はいいました。

「この2年間、私はこのひびのせいで、あなたのご主人の家まで水を半分しか運べなかった。水がもれてしまうから、あなたがどんなに努力をしても、その努力に報われることがない。私はそれがつらいんだ。」

水汲み人足は、ひび割れ壺を気の毒に思い、そして言いました。

「これからご主人様の家に帰る途中、道端に咲いている美しい花をみてごらん。」

天秤棒にぶらさげられて丘を登っていくとき、ひび割れ壺はお日様に照らされ美しく咲き誇る道端の花に気がつきました。

花は本当に美しく、壺はちょっと元気になった気がしましたが、家に着くころにはまた水を半分漏らしてしまった自分を恥じ、水汲み人足に謝りました。

すると彼は言ったのです。

「道端の花に気づいたかい？花が君の側にしか咲いていないのに気づいたかい？僕は君から落ちる水に気づいて、君が通る側に花の種をまいたんだ。そして、君は毎日、僕が小川から帰る途中水をまいてくれた。この2年間、僕はご主人様の食卓に花を欠かしたことがない。君があるがままの君じゃなかったら、ご主人様はこの美しさで家を飾ることができなかったんだよ。」

人は誰もが、それぞれユニークな「ひび割れ」を持っています。ただそれが、まるで罪であるかのように思ったり、言われたりすることがありますが、それがあからこそ、誰かを幸せにできる特徴なのだと考えたいです。

「ひび」を責めたり嘆いたりするかわりに、どうしたら花を咲かせることができるかを一緒に考えること、子どもたちの「ひび」が、誰かに水を与え、誰かを輝かせることができるよう、子どものために花の種をまくことが、私たち教職員や親の仕事ではないかということ「ひび割れ壺」の話を読んで感じています。